

○壬申九月十五日

叙従五位

水野 忠儀

太政官日誌明治五年第七十三号

○壬申九月十九日

御達書寫

二百七十九号

天長節酒饌被下候ニ付テハ御雇ノ名義ヲ以勤
仕ノ者共月手當金十一圓以上ノ者ハ判任ニ準
シ十圓以下ハ等外ノ振合ヲ以御祝酒被下候条
此段為心得相達候事

但傳習生徒等ハ不被下候事

○壬申九月廿日

御沙汰書寫

開拓使

青森縣管轄元館縣地方自今其使管轄被仰付
候条青森縣ヨリ可請取事

○青森縣

其縣管轄元館縣地方自今開拓使管轄被仰付

候条同使、可引渡事

御布告書寫

二百八十号

辰之口元不折所、印書局ヲ被置候事

但正院管轄之事

○

二百八十一号

先般發行ノ新紙幣之内五圓札百枚押印中紛失
ニ付探索中ニ候条別紙明細書之通り相心得日
常交換ノ際各注意セシメ見當候節ハ其人名宿
所等精細ニ相糺シ速ニ其筋へ届出可申萬一尔

心得隠し置後日發露致し候節ハ嚴科ニ可被処
候間各管轄内へ不洩様可相達事

紛失紙幣明細書

一五圓札 記号ハ番号〇〇四〇〇一ヨリ百枚

裏面 大蔵卿之一印 朱肉

右押印有之

表面 明治通宝 朱肉

同 出納頭割印 青肉

裏面 記録頭割印 緑肉

右三印押印無之

但本文各印共精良ノ肉ヲ用ヒ押印セシムル
ニ付湯水ニテ洗ヒタリ氏決シテ消滅スル
無シ贋製ノ肉ハ湯水ニ逢ヘハ必ラス消滅ス
可キニ付若真實不分明ノ札ハ前文ノ如ク試
驗ノ為メ湯水ヲ用ヒ指頭ニテ磨擦スレハ必
ラス判然タル可シ又記号はりノ二字ヲ或ハ
ほ相等ニ變画シタルモノハ無論贋製ト心得
ヘシ素ヨリ五圓札ニハほわノ記号ハ無之候

事

琉球藩王へ目錄之通下賜

目錄

金貨

- 二十圓 五十枚
- 十圓 百枚
- 五圓 三百枚
- 二圓 千五百枚

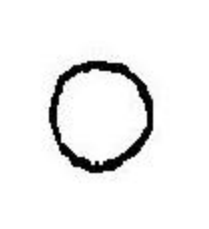
銀貨

- 一圓 三千五百枚
 - 五十錢 七千五百枚
 - 二十錢 一万八千七百五十枚
 - 十錢 三万七千五百枚
 - 五錢 七万五千枚
- 紙幣
- 五圓 二百五十枚
 - 二圓 六百二十五枚

一圓 千二百五十枚

半圓 二千五百枚

合計三萬圓



租稅寮七等出仕 星 亨

文部省六等出仕 文部省七等出仕長谷川 泰

文部省七等出仕 吉松 四郎

任司法推少判事 司法省七等出仕土居通夫

同 司法大解部大島貞敬

司法省七等出仕 司法大録松岡康毅

同 愛知縣典事大屋祐義

大政官日誌明治五年第七十四号

○壬申九月廿二日

天皇高御座ニ御シテ 左之通勅詔アラセラル
臣諸省東京府在京府縣開拓使奏任以上參列
天長節ニ付羣臣へ醮宴ヲ賜フ朝第八字親王大
茲ニ朕カ誕辰ニ方リ羣臣ヲ會同シ醮宴ヲ張
リ舞樂ヲ奏セシム汝羣臣朕カ偕ニ樂シムノ
意ヲ體シ其レ能ク歡ヲ盡セヨ

太政大臣奉答左之通

茲ニ天長ノ佳節ニ方リ 陛下羣臣ヲ會同シ
酺宴ヲ賜ヒ舞樂ヲ奏セシメ特ニ辱クモ偕樂
ノ 寵命ヲ拜ス群臣感喜ノ至ニ勝ヘス豈ニ
歡ヲ盡クシ樂ミヲ極メサルヘケンヤ乃チ恭
ク 陛下ノ聖誕ヲ祝シ萬壽無疆ヲ祈リ奉ル
次ニ酺宴ヲ群臣ニ賜ヒ舞樂ヲ奏セシム〔東遊〕畢
ツテ 入御第十一字日比谷御門外練兵所へ
行幸兵隊整列 天覽大臣參議諸省長官次官宮

内省式部寮等供奉ス 御巡覽了ツテ 還幸ア
ラセラレ午後第三字麝香間詰非役華族琉球使
臣參列ス 天皇又高御座ニ御ス 勅語奉答〔中
山從一位勤之〕宴會舞樂〔迎陵頻胡蝶〕等ノ式前ニ
同シ夕第六字延遠館ニ於テ各國公使等へ酒饌
ヲ賜フ今晚第六字 賢所皇靈 八神殿 御祭
典アリ

○壬申九月廿三日

御沙汰書寫

八代縣

肥後國球摩郡米良山十四ヶ村日向國見湯郡へ
組替美々津縣管轄被 仰付候条同縣へ可引渡
事

○ 美々津縣

肥後國球摩郡米良山十四ヶ村日向國見湯郡へ
組替其縣管轄被 仰付候条八代縣ヨリ可受取
事

御布告書寫

二百八十二号

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候条此旨相
達候事

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持
シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品
取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事
但取締向ニ関係無之者見当リ訴出候ニ於
テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

右取上候品東京大坂ハ武庫司其他ハ所管ノ
鎮臺へ可差出事

○

五等出仕 正六位川本清一

六等出仕 從六位鈴木 暢

七等出仕 正七位阿部泰藏

同 正七位大島貞益

○壬申九月廿四日

御布告書寫

二百八十四号

各府縣ニ於テ管轄内へ布達ノ文書并其府縣官
員及管下人民ヨリ廳へ差出シ候書面ノ儀從前
何廳ト相認来候處以後其管轄長官ノ名前ヲ以
布達可致又人民ヨリ廳へ差出候文書モ同斷長
官ノ名前ヲ宛テ可相認事

○

二百八十五号

各府縣管下村町ヨリ其管轄廳へ租税金納方ノ
儀ハ其地方廳ニ於テ兼テ期限觸達ニ可有之

儀ニ候處免角納方不抄取是迄各廳ヨリノ上納
皆濟期限通不行届甚以不相濟事ニ候以來天災
地變其他無餘儀事故有之候ハ、格別方一人民
心得方等閑ヨリシテ兼テ觸達ノ期限迄ニ各其
管轄廳へ納方不致者ハ一ヶ月毎ニ不納金百圓
ニ付五十錢ノ利息ヲ加へ上納可為致尤其年七
月ニ至ル迄猶納方相滞ルニ於テハ本人身代限
リ申付本税利分トモ一同為差出候積相心得其
旨兼テ管下村町へ不洩様布達致シ此度取締可

相立事

右之通相達候条租税察へ納方皆濟期月ノ通上
納取計人民上納遅延ノ為メ皆濟難相成今ハ其
次第年々五月十五日迄同察へ可届出事

二百八十六号

昨辛未年新置縣ノ際高反別一村限帳大蔵省へ
可差出旨相達置候處今般地券發行ニ付テハ高
反別共詳細相分リ可申ニ付差出ニ不及候条此
旨相達候事

二百八十七号

○ 本月四日夜石鐵縣ニ於テ何者共不知同縣九等
出仕植村德昭ハ深疵ヲ為負逃去候ニ付各地方
官ニ於テ遂搜索速ニ捕縛可致事

二百八十八号

○ 今般正院ニ於テ 皇國地誌編集相成候ニ付是
迄諸省并各府縣右編集關係ノ事件ハ一切管轄
候条此旨相達候事

但兼テ陸軍省ヨリ布告ニ及ヒ置候件々取調
出来次第史官ハ差出可申事

大政官日誌明治五年第七十五号

○ 壬申九月十二日分 退録

鐵道開業ニ付新橋橫濱所鐵道館へ 臨幸ア
ラセラル其式左ノ如シ

本日朝第九字 御出門馬車ニ 御シテ新橋鐵
道館ニ 臨幸 途上兩傍ニ近衛歩兵三大隊鎮臺
前鐵道館内ノ近衛兵大隊布列警衛ス 着御ノ
喇叭ヲ一シマシノ曲ヲ吹カシム橫濱モ亦同シ
工部省長官鐵道頭其工部本省奏任官ヲ率ヒ欄

大政官日誌明治五年第七十五

廊ニ奉迎シ直チニ長官頭先驅シテ館内ニ入
 御此ニ於テ勅任官共ニ各國公使拜迎ス各國公
 使ヘ御會釋アリ外務卿之ヲ傳フ鐵道頭鐵道
 圖一卷ヲ奉獻ス畢テ長官頭等又前驅シ進御
 アラセラル奏任官南廊ノ側ラニテ拜礼ス此ヨ
 リ勅任官及ヒ工部省ノ奏任官外國公使等供奉
 列ニ加ハリ列ヲ正シテ乘車場ニ御進行列車
 ニ入御此際近衛砲隊日比谷練場ニ於テ祝
 艦ヨリ二十一發且新橋一同乘車第十十字十輛ノ
 ニアルノ樂隊奏ス

列車ニテ御疾行鐵道寮ヘ着御ヨリ此時ニ
 至ルノ際國旗ヲ舉ケ國樂萬歲ヲ奏ス御發車ノ
 奏第十一字横濱鐵道館ヘ着御此際東京鎮
 且於テ祝砲ヲ發スル百一發御出車此時又國
 且同港砲泊軍艦ヨリ廿一發
 旗ヲ舉ケ國樂ヲ奏ス慶雲工部省長官鐵道頭先
 驅乘車場ヨリ進御神奈川縣令及ヒ同所居合
 奏任官同所鐵道掛奏任官御雇外國人職長等館
 外ノ兩傍ニテ拜迎ス館内ヲ御通行ノ間同所
 居合奏任官共ニ各國領事兩傍ニテ拜礼ス便

殿ニ御椅子ニ 着御供奉列ヲ始メ縣令各國領
 事等立列ス此時中外衆庶ヘ 勅語
 今般我國鐵道ノ首線工竣ルヲ告ク朕親ヲ開
 行シ其便利ヲ欣フ嗚呼汝百官此盛業ヲ百事
 維新ノ初ニ起シ此鴻利ヲ万民永亨ノ後ニ惠
 ントス其勵精勉力實ニ嘉尚スヘシ朕我國ノ
 富盛ヲ期シ百官万民ノ為メニ之ヲ祝ス朕更
 ニ此業ヲ擴張シ此線ヲシテ全國ニ蔓布セシ
 メンテヲ庶幾ス

右百官ハ

東京横濱間ノ鐵道朕親ク開行ス自今此便利
 ニヨリ貿易愈繁昌庶民益富盛ニ至ラントヲ
 望ム

右人民ヘ

次ニ各國公使等祝詞ヲ奉ル
 闕下ニ拜奏ス今日ノ大典ニ列センメシタメ
 恭シク 陛下ノ寵呼ヲ蒙リ公使一列齊シク
 其譽ヲ受ル限リナシ今此鐵道ノ首線ヲ開ク

祝典ハ美政ノ光輝ノ茲ニ發見セル所以ニ
シテ而カモ 貴國ノ此レヨリ駸々歩ヲ進メ
昭然タル文明ノ域ニ伍列スルノ徵驗ナリ予
輩モ近年親シク見聞ヲ經且ツ歐米兩洲ニ於
テモ深ク心意ヲ注キタル此ノ如キノ大業ヲ
陛下及諸政官ノ黽勉止ムコトナキノ偉カヲ
以テ忽チ成功ニ至ラシメタリ仍テ庶希ハク
ハ衆庶之ヨリ尚ヲ幸ヒニ物足リ性脩マリ福
祿益々増進シ全國ノ威カモ其榮譽モ共ニ盛
隆ノ地ニ至ラン一ヲ是レ各國公使一列ノ均

シク 陛下ニ切實欣希シ奉リ供セテ敬意ト
賀悃ヲ呈奏スル所ナリ

伊太利全權公使

コンドアレサンドロ、エ

米利堅全權公使

チャルレス、イ、デロンク

同書記官

イシレルトデロング、ヘルリ

同通弁官

ナソ、イライス

澳地利弁理公使

ヘンリ、カリツセ

同書記官

シ、ホルト

西班牙代理公使

ヘレン、ロドリゲス、ムス

大正十一年三月二十一日

同書記官

ニコラス・ウエロ

佛代理公使

コントズナレン

同書記官兼通弁

ラレン

同書記官

ウイコントダリユ

魯代理公使

エウゲネービエツツオフ

英代理公使

アーシーワットソン

同書記官

クヌチヤウイリキ、ロレンス

エル子ストサトラ

マセドーン・マヌリー

和蘭書記官

フアン・ゲルフルーク

各國公使等へ 勅語

我國鐵道ノ首線ヲ竣リ朕親ヲ開行スルノ日
 ニ方リテ列國公使等齊ク来リテ祝意ヲ表セ
 ラル朕欣喜ノ至リニ堪ヘサルナリ朕更ニ庶
 幾クハ自今中外人民共ニ鴻利ヲ享ケ永ク幸
 福ヲ保チ公使等ノ祝詞ニ負カサラントヲ祈
 ル

畢ツテ外國商人頭取等便殿ノ階上ニ昇リ祝詞

ヲ申上ク

曾テ 帝國ノ恩惠ヲ蒙リ其府ノ保護ヲ受ケ
以テ横濱羈住スル各國人民今幸ニ 天皇陛
下照臨ノ機ニ際シ甚歡喜ニ堪ヘス殊ニ 帝
國史傳ニモ未タ曾テ有ラサル鴻益緊要ナル
此機會ニ臨ミ衆庶ニ代ツテ今其慶賀ヲ 陛
下ニ謹言ス既ニ鐵道ヲ開行セシ國ニ存リ其
便宜ニ因テ許多ノ利益ヲ得タリ則チ其國繁
榮ヲ生シ阻礙ヲ脱却シ之カ為隔絶ノ地ニ自

カラ近隣ノ如ク從ツテ財貨ヲ起シ普ク利潤
ヲ分ツノ益アリ今日右開行ノ時ニ當リ 天
皇陛下親カラ照臨シ賜ヒシハ豈隆盛ナラサ
ルヘケンヤ 天皇陛下今此規式ニ照降シ玉
ヒシカハ諸民モ此大業ニ感激シ後來ノ繁榮
ヲ醸成スニ至ラン 貴國政府ノ開化タル此
大業ヲ既ニ開行シ賜フ上ハ未タ其衆益便利
ヲ曉知セサル者モ之カ為ノ終ニ開化ノ域ニ
至リ此ノ如キ大業益廣大愈進步セシテ敢テ

疑ヲ容レサルナリ 日本ト各國ノ間ニ行ハ
ル、貿易交際モ漸々盛ナルニ至リ國中專ラ
勉勵シ平和繁榮ヲ起ス丁疑ナキヲ知レハ今
帝國ノ商法ヲ廣大ニ為シ永世不拔ノ基礎ヲ
立ント 帝國自カラ盡カセラレシトテ希望
ス然ル時ハ 陛下ノ權威益輝キ 貴國人民
ノ安寧ヲ増シ 貴國政府ト各國政府トノ友
誼愈々親睦廣大ナルニ至ルヘシ 天皇陛下
國家ノ為メ公エヲ施行シ玉ヒシ赫々タル

勲慮普ク國中ニ彰明シ 貴國人民モ深ク之
ヲ感佩シ其御趣意ニ感激シ歡喜心ニ溢レシ
トス外國ヨリ此景況ヲ觀ル時ハ誠ニ 帝祚
ノ殷富洪福ナルヲ證スルニ足ルヘシ爰ニ此
悞和繁榮ノ人民ニ對シ此ノ如ク深慮ノ公エ
ヲ作シ賜フニヨリ 天皇陛下ノ寶壽長久繁
蕃ニシテ其成果ヲ 叙覽シ賜ハラシトテ誠
惶懇願スルヲ容レ賜フヘシ

在橫濱千八百七十二年第十月十一日

獨	同	同	英	獨	佛	蘭	米	英
マンメルスドルフ	ウヒルギン	ウエン トン	クヒツキリン	グリーンウシ	グリゴイン	ビストリユース	ワルルシ	マルシヤル

外務卿 御答ヲ傳宣ス

英	同	米
キングドム	ステルン	ベークル

横濱居留ノ外客ヨリ今奏上セル祝詞ヲ聴キ
 朕深ク之ヲ嘉納ス凡ソ我帝國ニ住セル入
 固ヨリ此地ニ産レ出タル者モ儼ニ此地ニ寓
 セル者モ偶然此地ニ来レルモ自ラ好テ航渡
 セルモ齊シク保護ニ泄レス權義ヲ失セス康

福益昌シニ我國歩ヲシテ文明ニ向ハセント
猶斯事業ヲ盛大ニシ既ニ兩間ニ存セル和樂
ノ交誼ノ永續セル間ハ中外ノ人民ヲシテ洽
子ク投擲ノ下ニ在ラシメン
次ニ横濱ノ我カ商人頭取祝詞ヲ上ツル
方今 皇國隆運勅興聖德洽子ク洪荒ノ表ニ光
被シ当横濱ノ如キハ日ニ繁華ニ赴ハキ從テ
諸商モ榮昌ニ至ル且ツ郵便電線ノ行ハレシ
ヨリ四方ノ通信自由ヲ得就中鐵道ノ成功ニ

及ヒ隔地モ比隣ノ如ク東京ノ往復ハ一日數
回ニ至レリ而シテ輜重ノ運輸モ之ニ準セリ
右ハ文明國中既ニ實驗ヲ經シ絶巧奇機ニシ
テ近頃之ヲ 皇國ニ傳ヘリ其神速便捷ニシ
テ貨財ヲ興シ利潤ヲ生ス誠ニ口舌ノ能ク
盡クセル所ニ非ス殊ニ当港ハ貿易首場ノ地
ナレハ商旅ノ者ニ至リテハ其ノ 仁恩ヲ蒙
ハルヤ最モ夥シト為ス抑モ 皇國ノ開化ニ
赴ムケル僅ニ數年ノ前ニ基ヒセリ然リニ夙

ク斯ル盛大ノ偉業ヲ開カサセラレシト既ニ
各國人民ノ欽稱嘆羨シテ措カサル所ナリ尚
此上 寶祚ノ悠久ニ從カヒ殷富洪福ノ基礎
ヲ建立シ永世不拔ノ事業ヲ成就シ五洲万国
ニ卓立傑出セント必セリ衆庶一般今日ニ在
リテ将来ヲ想像シ奉リ奮勵勉強セんと欲ス
實ニ剖判未有ノ鴻業ニシテ慶賀ニ餘ル有リ
就テハ今般 照臨アラセラレ候折柄衆庶聊
サカ敬祝ノ儀ヲ表シ一同歡樂ヲ縱ヒマ、ニ

シ恭シク 寶祚ノ万々歳ヲ壽シ奉リ 衆民等
衆庶ニ代リ謹ニテ祝辭ヲ奉ル 恐惶恐懼謹言

原 善三郎

田中 平八

高島屋嘉右衛門

金子平兵衛

増田嘉兵衛

神奈川縣権令 柳荅辞ヲ傳宣ス
祝詞悦ハシ汝等自ラ其意ヲ體シ其効ヲ奏セ

畢ツラ館内楼上ノ一室ニ御休憩第十二字同
 所ヨリ御發車諸式前ニ同シ奏樂第一字新編
 鐵道館へ還御ヲ樂隊樂〔御着車ノ時國旗音樂城還〕
 樂式前ニ同シ〔直ニ同所便殿ノ御椅子ニ着
 御供奉ノ列盡ク立列ス奏任官亦之ニ列ス勅
 語アリ〔横濱ニ於テ百官へノ文ト同シ〕太政大臣
 百官ノ總代トシテ祝詞ヲ上ツル
 東京横濱ノ間鐵道ノ工成リ爰ニ我々大皇陛下

下羣臣ヲ率テ親臨其開業ヲ落ス臣等此盛典
 ニ於テ謹テ一辭ヲ奉シ之ヲ祝ス抑國益ヲ興
 シ民利ヲ与ルハ經世ノ要治國ノ務トス陛下
 下大政維新ノ始ヨリ夙夜勩精百度皇張大ニ
 更始スル所アリテ全國ノ景象漸ク昌盛ノ運
 ニ進マントス乃チ此工業ノ如キ國ニ益アリ
 民ニ利ナル固ヨリ言ヲ俟ス是備ニ陛下勩
 精ト羣臣ノ協カトニ由レリ臣等更ニ望ラク
 ハ此舉ヲ首歩トシ其大益厚利ヲ全國ニ洽カ

ラシメ人民ヲシテ永世感戴ノ不朽ニ傳ヘシ
 メントヲ
 畢ツテ衆庶ヘ 勅語アリ〔横濱ニ於テ人民ヘノ
 文ト同シ〕東京商人頭取祝詞ヲ上ツル
 己巳ノ春東京ヲ 帝都ト御定 御遷座遊ハ
 サセラレシ以来官能ク束縛ノ政ヲ解キ民自
 ラ自由ノ權ヲ得ルノ勢ヒ日ニ進ミ保護ヲ蒙
 リ生業ヲ安スルハ全ク上 至尊ヨリ下庶人
 ニ至ル迄共ニ天賦ノ福ヲ享ケ共ニ地有ノ利

ヲ分タント厚キ 御仁慮ナルトハ言ハスノ
 明カナリ恐レナカラ其美舉屈指ニ違アラサ
 ル程多キ中ニ今般東京横濱ノ間鉄道成レリ
 トテ忝ナクモ 幸臨マシニ 御躬親ヲ之
 ヲ開カセラレ其大典ノ縱觀ヲ庶人ニ恩許ア
 ルノミナラス勿體ナクモ有難キ 勅言ヲ賜
 ルヲ我國千古未曾有ノ盛業ヲ開御ノ機ニ当
 リ又千古未曾有ノ慈心ヲ示シ賜フ衆皆手ノ
 舞ヒ足ノ踏ムヲ知ラス熱ラ鉄道ノ利ヲ惟ル

二東京横濱ノ間僅ニ一日ノ里程ヲ隔ツルス
ラ從來人ノ往還物ノ運輸障碍少カラサリシ
ニ今ヤ之ヲ瞬間ニ縮メ貿易ハ勿論諸事便ヲ
得ルヲ多シ況ヤ此線全國ニ募布スルノ日ニ
於テヲヤ其便ニ依リテ人皆隔遠ノ地ヲ近隣
ノ如ク自在ニ往復スルヲ得國民和親ノ情因
テ厚ク財貨融通ノ便因テ大ヒナラシム更ニ
疑ヲ容レズ舉國協力同心ノ商ノ業ヲ盛ニ興
シテ國ノ富ヲ大ヒニ進メ以テ有名ノ外國ト

時立スルノ基ナラシ此盛業ヲ 朝政一新國
事多端ノ夾ニ興シ玉ヒ奉命ノ官員勉カシテ
急ニ其功ヲ奏スルハ全ク奇功ノ機關人智ヨ
リ出テ世上ノ便ヲ助クルヲ我等衆庶ニ示シ
頓ニ愚昧ノ夢ヲ醒シ漸ク人智ヲ開キ普ク文
明開化ノ域ニ至ラシメントノ厚キ 御意ナ
ラント唯感泣ノ外ハアラス嗚呼我等衆庶何
ノ幸カ此ノ如キ明德ヲ備ヘサセラル、ノ
君ヲ戴キ此ノ如キ 鴻恩ニ浴スルノ民トナ

此下豈千載ノ一遇ニ非スヤ然ラハ我等衆皆
愚蒙ト雖ル自今情發ニ協力同心シテ以テ我
國益ノ一端ヲモ助テ奉リ 此鴻恩ノ一毛ナ
リ凡酬ヒ奉ラスンハアル可カラス故ニ今爰
ニ數行ノ賀言ヲ叙ヘ以テ 天皇陛下ノ明德
万世ノ下ニ垂レ我億兆ノ民餘慶ヲ蒙ラシ
テ謹テ仰ク 君萬歳 君萬歳

三井八郎右衛門

三野村利左衛門

鹿島清兵衛
行岡庄兵衛
榎本六兵衛
西村七右衛門
岡田平馬
藤田東四郎
東京府知事 御答辭ヲ傳宣ス〔横濱商人ヘノ文
ト同シ〕後工部省長官次官大少丞並局長鑛道頭
及同寮ノ奏任官御雇外國人ノ職長等ヘ 御賞

詞アリ

汝等殊ニ勉力事ニ從ヒ遂ニ此功ヲ奏ス朕満
足ノ至ニ堪ヘス且是レ外國ノ職長等熟練ノ
力ニ依ル朕之ヲ嘉賞ス

工部省長官同省官員總代トシテ祝詞ヲ上ル
誠恐謹言ス今般東京横濱間ノ鉄道成功ニ因
リ天皇陛下臨幸大ニ開行ノ典ヲ舉サセ
ラレ百官万民ニ勅宣ノ後当承ノ官員獎勞
ノ綸諭ヲ蒙ル臣等幸ニ聖時ニ遭逢シ盛

儀ニ拜列シ又此恩諭ヲ蒙リ歡忻悚懼並至
リ感激ニ堪ヘス候臣等恭シク思惟仕候ニ抑
此大業ノ竣功ヲ得ルハ其始メ二三ノ重臣衆
口ヲ顧ミス苦慮建議ヲ致セシト陛下ノ睿
智明断トニ因リ大政維新國事多端ノ際ニ於
テ此大工作ヲ創起セラレ大蔵又能ク廣費ヲ
度支シテ竟ニ此首線ヲ成就シ始メテ鉄道ノ
至便ヲ衆庶ニ明示スルニ由リ朝野舉テ此
鴻業ノ興隆ヲ企望スルニ至ル是金ク陛下

大正三年三月廿五日

ノ大仁ニシテ即チ万民ノ幸福ナリ 臣等叨リ
ニ微勞ヲ有シテ敢テ 恩賞ニ当ラシヤ更ニ
今又其盛典ヲ舉行セラル、ニ当リ 陛下
皇國ノ富盛ヲ期シ此線ヲ全國ニ募布セシ
ヲ庶幾シ給フノ旨 勅諭有ラセラレ 臣等愈
感勵ニ堪ヘス更ニ夙夜努力シテ 此鴻業皇
張ノ時ニ造ヒテ 聖恩ノ万一二報セシテ
期スヘク候仰キ願ハクハ 皇國ノ工事日月
ニ盛大ヲ為シテ 聖旨速カニ貫徹シ愈國益ヲ

興愈國民ヲ利シテ 陛下ノ大功大徳ヲ万々
歳ニ垂示シ玉ハンテ 臣等誠恐誠恐謹言
次ニ各國公使へ 御會釋アリ了リテ 御帰輦
夫ヨリ外國公使大臣參議勅任官工部省奏任官
延遠館ニ至リ 天皇陛下、幸福鐵道盛大ノ祝
宴アリ此日ヤ鐵道館地内ニ棧棚ヲ架シ内外紳
士豪家及ヒ其姑娘、印票〔印票ハ兼テ鐵道寮ヨ
リ差出シ置モノ〕ヲ持来ルモノ右棧棚ニ登ルヲ
許ス且途中鐵道技館毎ニ障碍ナキ場所或ハ其

近傍又ハ鐵道線ノ兩傍ニ於テ男女衆庶ノ縱觀
ヲ許ス此他濱 離宮ノ園庭ニ諸藝人ヲ集メ官
員衆庶ノ歡樂ニ供ス横濱 行幸ノ間新橋鐵道
館内ニテ煙火ヲ設ク夜ニ到リ鐵道館及濱 離
宮ニ賀燈ヲ點シ且濱 離宮ノ前海面ニ於テ煙
火ノ戲レアリ横濱ニ於テモ棧棚賀燈烟火等總
テ新橋ニ同シ此日東京横濱商人中ハ酒肴ヲ賜
フ

太政官日誌明治五年第七十六号

○壬申九月廿四日
御用有之朝鮮國ハ
差遣候事

外務省十四等坐位内元貞

○壬申九月廿五日

御沙汰書寫

二百九十一号

七 尾 縣

其縣被廢候事

但能登國一圓ハ石川縣へ越中國射水郡ハ新
川縣へ管轄被 仰付候条兩縣へ可引渡事

○ 石川縣

七尾縣被廢能登國一圓其縣管轄被 仰付候条
元七尾縣ヨリ可受取事

○ 新川縣

七尾縣被廢越中國射水郡其縣管轄被 仰付候
条元七尾縣ヨリ可受取事

御布告書寫

二百八十九号

今般北海道渡島國檜山郡江差港へ海關ヲ設候
条此段相達候事

○ 二百九十九号

今般於正院 皇國地誌編集相成候ニ付右關涉
ノ書籍并地圖類遍ク採集致シ候間諸省各府縣
ニ於テ只今迄備置候分ハ勿論其管下私著ノ分
ヲモ早々取調書目可差出候此旨相達候事

○

七等出仕

古川 正雄

澳國博覽會御用掛
被仰付

七等出仕古川 正雄

警保寮七等出仕

早川 勇

允請任侍從

侍從番長醍醐忠順

補推少教正

平山 省齋

○壬申九月廿七日

御沙汰書寫

外務省

其省官員琉球藩在勤被 仰付候事

但在勤官員ノ儀ハ取調可届出事

○ 大藏省

其省官員琉球藩へ出張被 仰付候事

○ 從五位大河内正質

藩債支消公解費等ノ内ハ家祿差出候儀被免候

段先般御布令有之候處元大多喜藩員債ノ内金

七千六百十三圓私債ニ引受致償却度懇願ノ趣

神妙ノ儀ニ付被 聞食候事

御布告書寫

七尾縣被察能登國一圓石川縣、越中國射水郡
八新川縣へ管轄被仰付候系此段相達候事

○

外務省六等出任

外務省七等出任伊地知貞馨

任島根縣參事

正七位兵頭正懿

叙從五位

澤長丸

補推少教正

性海寺體應

○壬申八月四日分

任佐賀縣推參事

正七位伴

正臣

○壬申九月廿日分

御沙汰書寫

琉球藩王 尚泰

藩内融通ノ為メ貨幣三万圓下賜候事

〔賜フ所ノ貨幣日録ハ既ニ第七十三号ニ載之〕

大政官日誌明治五年第七十七号

○壬申九月廿八日

御沙汰書寫

琉球藩

先年来其藩ニ於テ各國ト取結候條約並ニ今後
交際ノ事務外務省ニテ管轄候事

○外務省

先年来琉球藩ニ於テ各國ト取結候條約並ニ今

後交際事務其省ニテ管轄可致事

○ 二百九十九(ノ)犬 上 縣

其縣被廢滋賀縣へ合併被 仰付候条従前所轄
之地所物成鄉村等當申年ヨリ同縣へ可引渡事

○ 滋 賀 縣

犬上縣被廢其縣へ合併被 仰付候条従前所轄
ノ地所物成鄉村等當申年ヨリ可受取事

○

任開拓幹事

開拓使七等出仕吉村高種

任名東縣参事

山口縣權参事久保断三

○ 壬申七月廿五日分

任陸軍少佐

陸軍大尉古川氏潔

○ 壬申八月廿二日分

燈臺寮七等出仕

燈臺大屬長谷川嘉道

大政官日誌明治五年第七十七

○正誤

第七十六号一葉外務省十四等出仕竹内元貞八
竹内精三ノ誤ナリ

大政官日誌明治五年第七十八号

○壬申九月廿九日

御沙汰書寫

二百九十四号

琉球藩王 尚泰

自今一等官ノ取扱タルヘキ旨被 仰出候事

○ 外 務 省

琉球藩王尚泰自今一等官ノ取扱タルヘキ旨被
仰出候條此旨相達候事

○ 琉球藩王 尚泰

東京府下飯田町橋木坂ニ於テ邸宅一圍下賜候事

御達書寫

堺 縣

其縣管下泉州信太山大坂鎮基馬繫場并射的屬具置場入用地三百二十坪陸軍省へ引渡可申事

御布告書寫

犬上縣被廢滋賀縣へ合併被 仰付候条此段相達候事

○ 二百九十三号

奏任官ノ輩親病氣并自身病氣等ニテ御暇願之儀ハ自今其管轄長官ニテ聞届置其時々可届出候事

○ 二百九十四号

琉球藩王尚泰自今一等官ノ取扱タルヘキ旨被

仰出候条此旨相違候事

○壬申九月十四日分

文部省七等出仕

正七位小泉信吉

同

正七位高橋正純

同

正七位松村矩明

○壬申九月十八日分

依願免出仕

但位記
返上

大坂府七等出仕田年足

北白川宮家令差免候事

北白川宮家令山本亮

太政官日誌明治五年第七十九号

○壬申十月二日

御布告書寫

二百九十五号

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古来制禁ノ處從來年期奉公等種種名目ヲ以テ奉公住為致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可為嚴禁事

一農工商ノ諸業習熟ノ為メ弟子奉公為致候儀
ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過ク可カラサ
ル事

但双方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手夕
ルヘキ事

一平常ノ奉公人ハ一ケ年宛タルヘシ尤奉公取
續候者ハ證文可相改事

一娼妓藝妓等年季奉公人一切解放可致右ニ付
テノ貸借訴訟總テ不取上候事

右之通被定候条此度可相守事

二百六十六号

甲官ニテ免職ノ官員ヲ乙官ヘ致登庸候節ハ其
前官ヘ其者免職ノ子細年月日等篤ト承合セ人
物ヲ詳悉辨知候上可致取扱段庚午六月御布令
有之候處近來間々不取調ニテ致登庸候向モ有
之哉ニ相聞ヘ不都合ノ事ニ候以來ハ右御布令
ニ照準シ精確取調ノ上可致取扱候此段更ニ相
違候事

御達書寫

新治縣

其縣管下下總國海上郡大吠崎へ燈明臺建築相
成候ニ付同所ニ於テ六百坪餘ノ地所燈臺寮出
張官員へ引渡可申事
但引渡方ノ儀ハ燈臺寮出張官員へ打合可取
計事

任權大内史

少内史杉浦讓

任大外史

豐岡縣令小松彰

七等出仕

福原恭輔

免本官專任海軍兵學中教授

海軍中佐兼海軍兵學中教授本漸

依願免出仕

但任記返上

文部省七等出仕伊藤保義

任司法權大檢事兼司法少丞

司法省五等出仕得能良介

○壬申十月三日

御布告書寫

二百九十七号

明治五年十月二十二日

是迄造幣寮ニ於テ發行致シ候古金銀預リ證券ノ儀ハ古金銀混合地金而已ニ限リ引換來候處今般右證券渡方規則中左之通改正増補致候条以來精惡共貳分判所持ノ者ハ望次第造幣寮ハ申立規則ニ準シ地金ヲ納メ證券請取候様可致事

古金銀納入證券渡方規則

第一則中掲載古金銀又ハ地金塊ノ高ハ成貨ニシテ凡ソ千圓以上ナラハ之ヲ受取ヘシ

改正貳千五百圓以上ヲ受取ヘシ

第七則中掲載預リ證券ハ發行ノ日ヨリ六ケ月以後タラハ持參次第新貨ニ交換スヘシ

改正三ヶ月以後タラハ新貨ニ交換スヘシ

増補二則

第一則精貳分判五千兩以上ノ高ナラハ證券引換ノ為メ之ヲ受取ヘシ

第二則惡貳分判壹万兩貳分判ノ數貳万圓以上ノ高ナラハ證券引換ノ為メ之ヲ受取ヘシ

但兩則共受取方手續キ精製料等都テ古金
銀混合地金塊ノ通リタルヘシ

○

外務省六等出仕

兵庫縣權參事櫻田親義

任副領事

神奈川縣典事林道三郎

香港在勤被 仰付

副領事林道三郎

紙幣寮七等出仕

大藏省七等出仕岸有素

任陸軍中佐

陸軍少佐中村重遠

任侍從番長

侍從山岡鎮太郎

任若松縣權參事

若松縣七等出仕安田成裕

石鐵縣七等出仕

石鐵縣八等出仕中村一鶴

壬申九月十八日分

任岡山縣權參事

犬上縣權參事石部誠中

柏崎縣七等出仕

柏崎縣典事石川昌三郎

壬申九月廿七日分

任埼玉縣參事

埼玉縣權參事白根多助

大政官日誌明治五年第八十号

○壬申十月四日

御布告書寫

二百九十八号

府縣官宅地租取立方ノ儀新營共古家買上ノ令
ハ敷地買上代金百分ノ一ヲ以拜借地代トシ從
前官宅有之今ハ近隣ニ比較シ地價相定メ同前
ノ割合ヲ以宿代ノ外別途ニ取立相納可申此段
更ニ相違候事

但敷地買上ノ分ハ高内引ノ積取調可伺出候
事

文部省六等出仕

文部省七等出仕田中弘義

同

文部省七等出仕折本直太郎

任名東縣權參事

名東縣七等出仕西野友保

任茨木縣權參事

關 新平

任佐賀縣參事

石井 邦猷

補中教正

從五位上杉齊憲

○壬申十月五日

六等出仕

文部省六等出仕内田正雄

免本官

文部大丞町田久成

叙從四位

正五位伊地知正治

叙正五位

從五位陸奥宗光

叙從五位

正六位谷 干城

同

正六位藤原國幹

同

正六位野津鎮雄

同 同 同 叙 同 同 同

正六位

正六位伊東祐磨

正六位芳川頭正

正六位前島 察

正六位吉井正澄

正六位武井守正

正六位木野盛亨

正六位長谷川方首

正六位柳 猶悦

正七位中島信行

同 同 同 同 同 叙 同

正六位

正七位下村盛俊

澤太郎左衛門

野村 素介

大野 誠

太田 資政

香川 真一

水本 成美

正七位北村重頼

正七位山地元治

同 同 同 同 同 同 同 同

正七位野崎貞澄
正七位野津道貫
正七位伊藤雋吉
正七位相浦紀道
正七位有馬純雄
正七位大塚正男
正七位安藤則余
正七位坂本純熙
從七位石井省一郎

同 同 同 同 同 同 同 同

古屋 敏節
石渡 貞夫
戸田 雅高
杉本 芳熙
山岡鐵太郎
山口 正定
森 清藏
野口 常共
津田 信弘

叙正七位

太政官日誌明治五年第廿三

同 同 同 同 同 同 同 同

緒方	成松	桑田	與倉	吉松	黒木	岩崎	村田	長坂
惟勝	明賢	安房	知實	秀枝	為楨	長明	經任	照德

同 同 同 同

大島	松田	藤井	松岡
貞敏	宣風	希璞	方祇

○壬申九月五日
任海軍中佐

陸軍中佐林清康

大政官日誌明治五年癸卯八月

○正誤

第七十九号五葉前面叙任ノ内任若松縣權參事
安田成裕ハ九月十八日分任陸軍中佐中村重遠
ハ同月八日分石銀縣七等出仕中村一鷲ハ八月
廿七日分ナルヲ誤ヲ十月三日ノ中ニ列ス

太政官日誌明治五年第百八十一号

○壬申十月七日

御沙汰書寫

京 都 府

其府ハ裁判所被置候事

但司法省官負出張ノ上申談事務可引渡事

○ 從五位毛利元功

藩債支消公解費等ノ内ハ家祿差出候処被免候

段先般御布告ノ旨モ有之候処元徳山藩負債ノ
内金一万八千九百四十一圓餘私債ニ引受家祿
ノ内ヲ以致消却度懇願ノ趣神妙ノ儀ニ付被
聞召候事

御布告書馬

二百九十九号

米大小豆其他雜穀ノ類ヲ以テ油製造ノ儀差許
候條總テ絞油規則ニ照準シ可致取扱事

○

三百号

一華士族卒ハ掛リ候金穀貸借ハ明治二年巳六
月郡縣ノ制被 仰出候以前ノ分ハ裁判ニ不
及候事

一静岡及仙臺會津其外再立ノ藩々再立以前ノ
金穀借貸ハ裁判ニ不及候事

一自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金
銀貸借ニ如シ期ニ及テ不返時内證屢催促ヲ
ナスト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一度モ訴
出サレ者ハ裁判ニ不及候事

但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此限ニ非ス
一從前今後共家祿ヲ引當ニ致シ候金穀貸借ノ
儀ハ一切裁判ニ不及候事

○
司法省七等出仕
廣島縣等出仕藤田高之
補權少教正
智恩寺賢龍

○壬申十月八日

御沙汰書寫

海軍省

橫須賀造船所橫濱製作所其省管轄被 仰付候
條工部省ヨリ可受取事

○工部省

橫須賀造船所橫濱製作所海軍省へ可引渡事

御布告書寫
三百一號

今般定石代安石代等改正ニ付テハ出格ノ僉議
ヲ以テ此度限リ舊格收入高ト右改正增加高ト

ノ間金ノ内允貳割ヲ目途ト致シ勸業投産ノ要
費ニ充人民獎勵ノ道相盡シ候様可致候条右石
代有之府縣ハ其地方廳ニ於テ薦ト勘量ノ上方
法詳細ニ取調大蔵省ハ可伺出候事

太政官日誌明治五年第百八十二号

○壬申十月八日

御沙汰書寫

司 法 省

魯國皇子来着延邊館滞留中各所進歩ノ儀モ可有
之ニ付取締向別テ注意可致事

○ 東 京 府

魯國皇子来着延邊館滞留中府下取締向別テ注

意可致事

○ 東京府

府下番人取建二付司法省へ取調被 仰付候条
諸事申談取扱可致事

任二等議官

正五位伊丹重賢

同

從五位松岡時敏

同

從五位細川潤次郎

同

從五位高崎五六

任三等議官

從四位大給一恒

同

正六位永井尚志

同

正六位宮島誠一郎

同

正六位生田精

任四等議官

從六位藤澤次謙

同

從六位丸岡莞尔

同

從六位中井弘

任五等議官

正七位北澤正誠

同

正七位横山由清

大正十一年三月

○壬申九月廿三日分
六等出仕

從六位堀越愛國

○壬申十月五日分

叙從五位
叙正六位

正六位島本仲道
從六位西成度

○壬申十月九日

御布告書寫

三百三号

大藏省中勸農寮正算司被廢候事

清國臺灣へ為視
察被差遣候事

陸軍少佐樺山資紀

租税寮六等出仕

從六位森清藏

租税寮七等出仕

淡澤喜作

御用有之伊太利國へ
被差遣候事

租税寮七等出仕淡澤喜作

御用有之伊太利國へ
差遣候事

租税寮八等出仕中島守吉

任檢査權助

四七位中村義心

北白川宮家令兼勤
被仰付候事

宮内省六等出仕山中巖

任福島縣參事

福島縣推參事山吉盛典

太政官日誌明治五年第百二十三号

○壬申十月十日 御布告書寫

三百四号

北海道開拓創業以來募移自移ノ徒日月ニ増加
 今日ニ至リテハ運漕行旅モ不便トセス然ルニ
 元ヨリ曠莫ノ地ナレハ肥沃多産ニシテ棄棄ス
 ル者猶十ノ八九ニ居レリ因テ今度全道開曠ノ
 地低價賣下緩期除租等ノ規則別紙開拓使布告
 之通施行セシムル條墾闢牧畜或ハ漁獵採鑛都
 テ生産興工ノ志願有之者ハ同使へ可申出事

○

別紙
北海道土地賣貸規則

第一條

原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ従前拜借ノ分
目下私有タラシムル地ヲ除ノ外都テ賣下ケ地
券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事

第二條

賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限リトシ下手後十
ケ年除租タル可シ尤モ巴ニ私有シタル地ヲ相
對賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事

第三條

賣下ノ地價上等千坪一圓五十錢中等同一圓下
等同五十錢千坪以下其割合タル可ク且其地代
即納タルベシト雖氏家産中人以下或ハ罹災窮
乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有
之事

第四條

既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業
ハ勿論他人ヘ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘ

シ尤右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意
シ其方法及ヒ期限等詳細ニ可申出事

第五條

人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人へ賣渡シ
或ハ之ヲ引当トシテ金子ヲ借受ル等禁止タル
ベキ事

第六條

土地買下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二ヶ月
中ノ地ハ十五ヶ月下ノ地ハ二十ヶ月ヲ過キ不

手者ハ上地申付ル事

第七條

除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニヨリ適
当ニ可相定事

第八條

採鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願ス
ル者へハ其方法取調年限ヲ立貸地等ニ差出シ
税則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相
定事

大政官日誌明治五年第百八十四号
但諸鑛山脉理等ノ甲乙ハ查了シテ可公布事
第九條

右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運使等ニ費財盡
カシテ國家人民ノ利ヲ興シタル者ハ其功業
ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付与シ或ハ專
賣除租ノ榮利ヲ与ル等ノ處置可有之事
右之通候事

開拓使

○
任陸軍少佐

萬年千秋

大政官日誌明治五年第百八十四号

○壬申十月十日

任總領事	租稅權頭中山讓治
米國桑港在勤 被仰付候事	總領事中山讓治
任租稅權頭	紙幣權頭中島信行
宮内省七等出仕	宮内省八等出仕八田知紀
東京府六等出仕	相原安次郎

○壬申十月十三日

三百七号

御布告書寫

勅奏官位犯罪條例當三月相違置候処左之通被
改候条此段更ニ相違候事

勅奏官位犯罪條例

凡勅奏官及非職華族罪ヲ犯セハ其事由ヲ奏聞
シテ旨ヲ請テ推問ス下雖凡若事急卒ニ出テ即
時推問セザルヲ得ザル者ハ推問シテ後ニ奏聞
スルヲ聽ス

○

三百六号

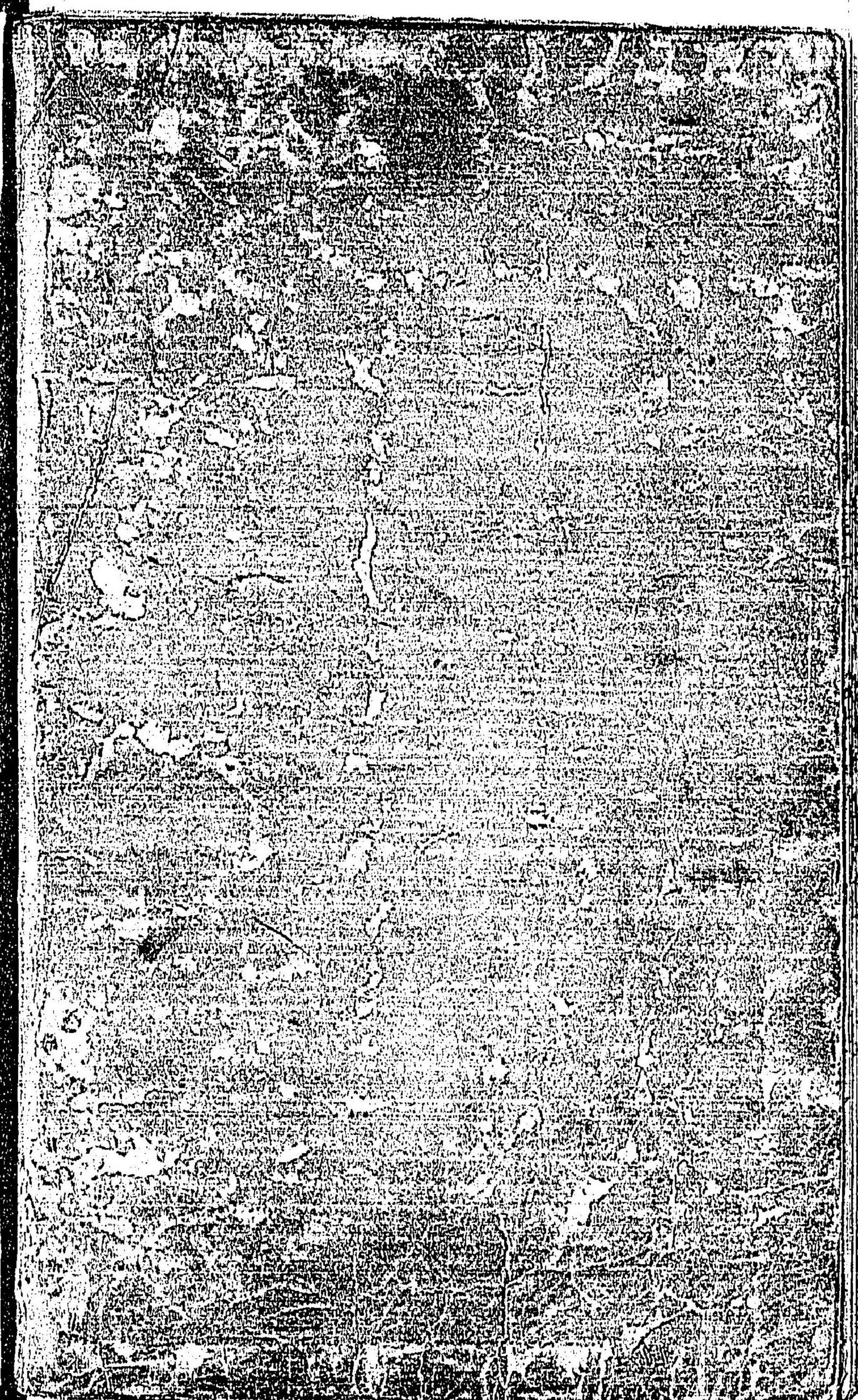
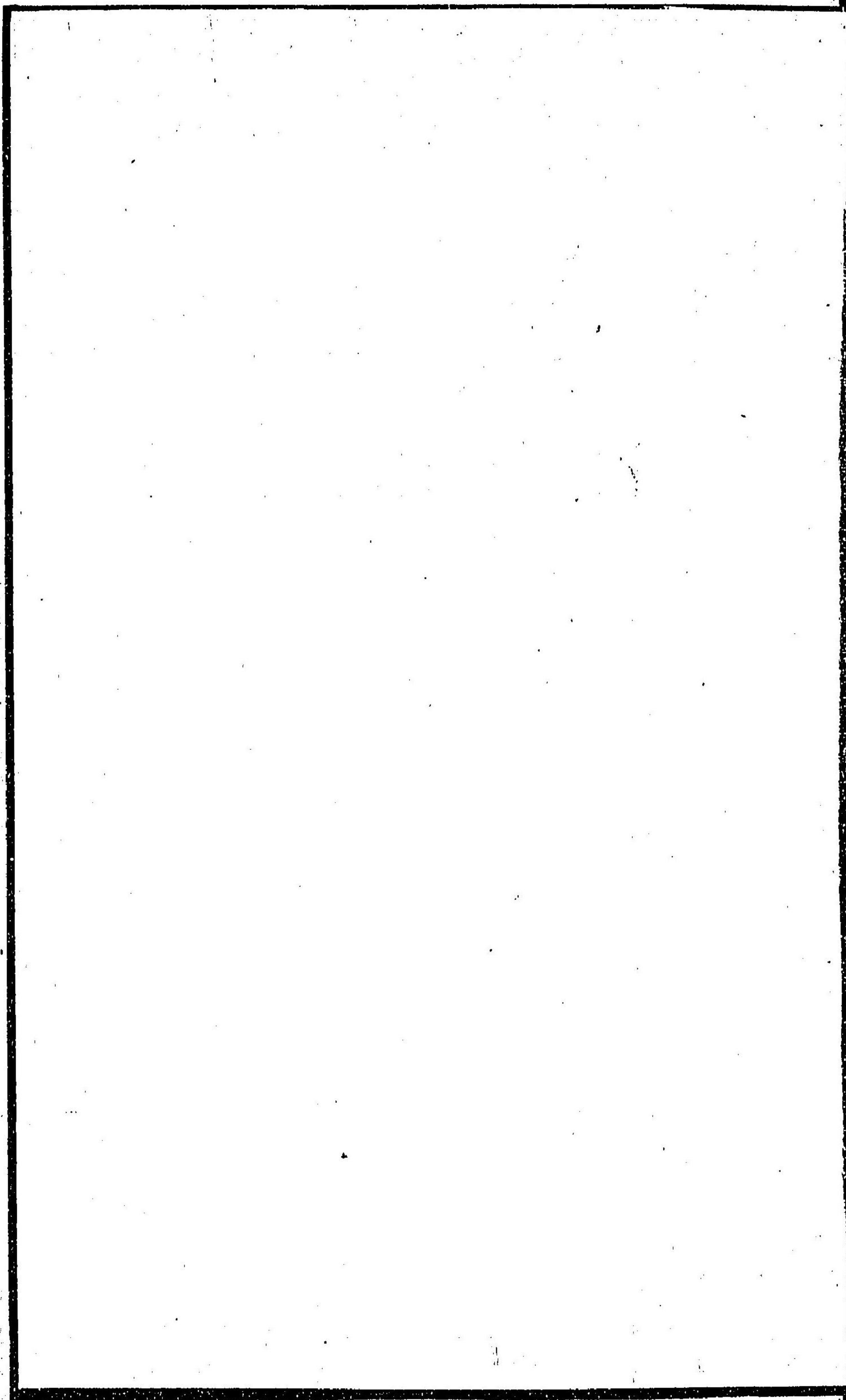
官員及華士族ノ輩過誤失錯ノ公私罪ニ係リ進
退伺出候向追而御沙汰有之候迄ハ差扣居ニ不
及候事

○壬申九月十三日分

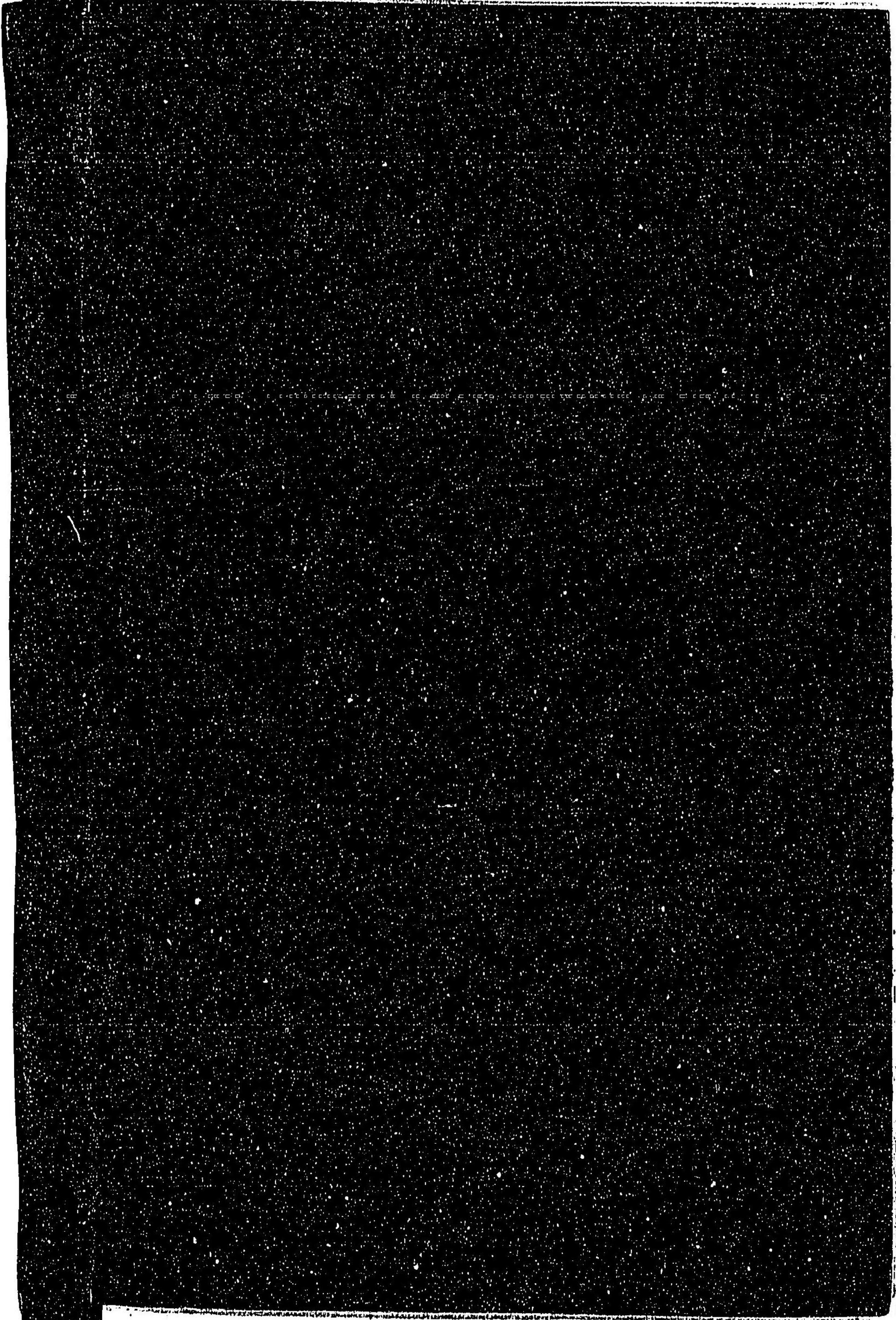
兼任司法權大檢事

司法少丞丹羽 賢

○壬申十月五日分



[Redacted]



[Redacted]